



第50回 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 全国大会 山梨大会

武田 菱丸

テーマ「育もう！子どものころとことば」

参加
無料

期 間 | 令和3年11月5日(金)～11月30日(火)

方 法 | オンデマンド(YouTube)による映像配信

記念講演 | 講師 原 恵子 先生 (上智大学言語科学研究科)

<主な研究テーマ> 小児の言語発達障害, 特に発達性読み書き障害 (ディスレクシア) の障害要因の解明, 評価法, 指導法の開発, 小学校低学年を対象とするリテラシー・アセスメントに基づく学習支援プログラムの開発, 発達性ディスレクシアの早期スクリーニング検査開発 就学前の自立的学習の基盤形成支援 -学習障害リスク児の早期発見と介入方法の開発- 発達性ディスレクシアの早期発見・早期介入のための教育実践-学級での発見から支援へのシステム構築の試み-等

「ことばの発達と読みの発達

～読むことに困難さのある児童への支援～

通級指導教室の対象障害種については, 各自治体において様々な形態が定められていますが, 大会開催県の山梨県のように, 言語指導と発達指導の両方を対象とする教室が増えているところも多くなっています。言語・難聴の障害と発達障害を併存する児童生徒にとっては, 通級による支援の幅が広がり有効性も確かめられていますが, 指導者にとっては様々な障害に対応するためのアセスメントや指導法の知識が必要となります。この講演では, 読み書き障害を通して, 読み書きスキルの基盤, 読み書きとことばの発達や学習との関連などを考えたいと思います。

特別講義 | 分科会コーディネーターによる専門講義

- 【第1分科会】中澤 洋子 先生 (長野ろう学校 言語聴覚士)
- 【第2分科会】小林 宏明 先生 (金沢大学)
- 【第3分科会】澤 隆 史 先生 (東京学芸大学)
- 【第4分科会】海津 亜希子 先生 (国立特別支援教育総合研究所)
- 【第5分科会】吉井 勤人 先生 (山梨大学)
- 【第6分科会】滑川 典宏 先生 (国立特別支援教育総合研究所)

※特別講義の概要については, 裏面をご覧ください。

申込方法 申込フォーム(右記QRコードより)

<http://www.zennangen.com/> または
FAX (裏面用紙)でお申し込みください。

申込期間 令和3年10月15日(金)より

(視聴期間中も、随時受付いたします。)



お問い合わせ 全国大会山梨大会実行委員会事務局

(甲府市立新紺屋小学校内)

TEL 055-252-2578 Email shinkonya-e@es-jhs.kai.ed.jp



055-253-8938

申込受付 令和3年10月15日(金)より

(視聴期間中も、随時受付いたします。)

※ 表面のQRコードまたはURLからお申し込みのできない場合は、この参加申込書よりFAXでお申し込みください。

第50回 全国公立学校難聴・言語教育 研究協議会 全国大会 山梨大会 参加申込書

氏 名	
勤務先・所属 (一般参加の方は、「一般」とご記入ください。)	
メールアドレス (必)	

- * 申し込み時にご記入いただいたメールアドレスあてに、開催日の前日までに「YouTube」視聴の際に必要なアクセス情報をご連絡いたします。必ずメールアドレスの記入をお願いいたします。
- * お申し込みいただいた個人情報については、本大会に関する目的以外に使用または第三者に提供することはありません。
- * コロナ感染のため、映像はZOOMミーティングでのご講義を録画したもので、画質・音質が低下し、視聴しづらい場面もありますが、ご了承ください。
- * 映像の録画・録音、撮影及び資料の2次利用、詳細内容のSNS等への投稿は固くお断りいたします。

☆特別講義の概要 (6分科会、全ての特別講義を視聴できます)

第一分科会	<p>「構音障がいのある子どもの指導・支援」 中澤 洋子 先生(長野ろう学校 言語聴覚士)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ことばの教室」担当者の専門性を考える。 主として「構音障害」に対する指導において。 ・言語障害を捉える2つの視点とは A「科学する指導(構音改善のため直接的・専門的指導)」 B「共同生活者としての指導」 ・AとBを意図的に行ったり来たりすることの大切さ ・担当者自身がいろいろな人とつながっていくこと。 	第二分科会	<p>「吃音のある子どもの指導・支援」 小林 宏明 先生(金沢大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吃音のある子どもの指導・支援をめぐる動向 <多面的・包括的アプローチの開発・実践> サブタイプ研究の進展,多要因モデルの提唱支持 吃音指導支援観や障害観の変化 様々な吃音支援方法の開発 ・吃音のある子どもの指導・支援の提案 ・ことばの教室の先生方に求められるものとは
第三分科会	<p>「難聴のある子どもの指導・支援」 澤 隆史 先生(東京学芸大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難聴学級・通級指導教室の現況 ・難聴学級・通級指導教室の子どもたちの様子 ・難聴学級・通級指導教室の専門性 ・障害への対応→能力への対応→生活・自立への対応 そして、総合力(コグニティブ・ネットワーク)への対応 ・難聴(通級)指導の役割 子どもの自立・生涯発達を見据えた取り組みを! 	第四分科会	<p>「通常の学級における多層指導モデルMM(MiM) ～学びを楽しみ、学びから自信を得る～」 海津 亜希子先生(国立特別支援教育総合研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスが示されたことで・MM開発の背景 ・MM(MultiLayer Instruction Model)というモデル ・MMで何を教えるか ■MMにおけるアセスメント ・MMにおける指導 ■MM研究から見えてきたこと ・より子どもも先生もアクセスしやすいように ・研究者・実践者が支え合う場
第五分科会	<p>「情緒をコントロールする力と自尊感情を高めるための支援」 吉井 勘人 先生(山梨大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情動的スキルとは 「目標達成,他社との協調,情動調整に関するスキル」 ・情動調整の問題 情動調整のタイプと方略 <タイプ>自己調整と相互調整 <方略>行動方略・言語方略・メタ認知方略 ・情動調整の発達と支援 ・自尊感情を高める支援 	第六分科会	<p>「『つながり』 ～子どもの思いに寄り添って～」 滑川 典宏 先生(国立特別支援教育総合研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの分科会レポートから ①地域を巻き込んだ連携の取り組みの大切さ(長野) ②小学校から中学校への継続的な指導の成果(山梨) ・人と人をつなぐために必要なこと 互いを尊重する,ツールを使う ・組織や機関・地域を巻き込んでつなぐ ・地域連携における通級指導教室のこれからの役割

*表面のロゴ「武田 菱丸」は山梨県の観光キャラクターです。本大会では、皆様にご来県いただくことはかないませんが、コロナ感染が終息し、様々な研究活動が再開した折には、ぜひ山梨にお越しください。お待ちしております。